

2020年度 みらいのひとづくり実践委員会

委員長 松本 剛

1. 運営方針

2012年、私たち熊谷青年会議所は「誇りある地域 熊谷」の創造に向けて今日まで、みらいのまちの希望である子どもたちのために運動を推進して参りました。2010年代アクションプランとして寺子屋事業、地域新聞の2本柱を主軸に8年間継続してきた運動では、「熊谷のたから」を伝播できる子どもの育成。故郷・熊谷に対して自分の考えに基づき、実際に行動に移せる子どもの育成。地域の大人達と共に、熊谷を自慢できる子どもの育成など子どもたちのために今できることを考え、メンバー全員で運動を邁進してきました。

9年目を迎える今、子どもたちのために私たちは何をなすべきでしょうか。それは自分の住んでいるまちに対しての愛着を深めてもらうことです。近年、インターネットの普及により、とても便利な世の中になっています。家から出ることなく子どもたちにとっても、わからないことを調べたり、ゲームなどを通じて世界中の人とつながることさえ簡単になった今、子どもたちの生活環境も変化しています。世の中が便利になった一方で、今後訪れることが確実視されている人口減少や少子化が引き起こす様々な問題など、今の子どもたちが大人になったときの負担は大きなものになることが予想されています。そういった問題に対して一人ひとりで立ち向かっていくことは困難であり、当たり前だったことが当たり前ではなくなる地域のために、手と手を取り合い行動することができる子どもたちが、みらいのまちの希望になると考えます。

そこで、本年度みらいのひとづくり実践委員会では「小さな手を、その先のみらいへ」を委員会テーマに掲げ、運動を推進して参ります。感受性豊かな子どもたちに愛着を深めてもらうには、自分たちが住まう熊谷とのつながりを強くすることが必要です。愛着を形成する上で人とのつながりがもっとも効果的であり、地域資産などの他に誇れるものを有していることも愛着を深める必要要素だとも言われております。そのために、学校や家では体験することのできない非日常の機会と地域資産の魅力を掛け合わせた原体験を提供し、子どもたちに熊谷での忘れることのできない思い出を創出する中で、地域の大人と子どもたちが積極的につながることでできる機会をも作り上げる寺子屋事業を実施いたします。また、子どもたちの自発的な行動を促し、地域資産と地域の大人、子どもたちを結びつけることでできる地域新聞の発行にも邁進していきます。

子どもたちと地域の大人、地域資産とのつながりを強くすることで子どもたちの胸の奥には熊谷への愛着が深く刻み込まれるものだと確信しています。そして、子どもたちが成長した先には熊谷に住み続けたい、仕事がしたい、結婚をして生活をしたいなどの感情が芽吹き、この熊谷のまちをもっと良くしていこうという、みらいの熊谷の担い手となり、「誇りある地域 熊谷」の創造に結びつくものと確信します。

2. 事業計画

- (1) 過去の青少年育成事業の効果と本年度の事業に対する期待感や効果を実感していただける例会の実施
- (2) 非日常の機会と地域資産の魅力を掛け合わせた原体験を提供し、地域の大人、子ども、地域資産がつながることのできる寺子屋事業の実施
- (3) 熊谷の子どもたちが熊谷の地域資産と地域資産とつながりのある大人を知り、自発的な行動を促すことができる地域新聞の発行

みらいのひとづくり実践委員会

【メンバー紹介】

：委員長
松本 剛
：松本オートサービス



：副委員長・理事
栗原 啓
：(株) 梅林堂



：理事
鈴木 康文
：ほけんのすずき



：副委員長
栗原 隆明
：埼玉スカイテック (株)



：委員
石井 孝佳
：石井建設 (株)



：委員
石川 奈津美
：和風Bar 琉帆瀬



：委員
和泉 光幸
：(株) 東京海上あん
しんエージェンシー



：委員
木村 俊太郎
：(株) 木村製麺所



：委員
坂田 孝純
：(宗) 玉井寺



: 委員

松澤 翔太

: JTB 首都圏熊谷店

